

「いわて県民計画(2019~2028)」

第1期アクションプランの 進捗状況について

I 健康・余暇

P 1～4

- 4 幅広い分野の文化芸術に親しみ、生涯を通じてスポーツを楽しむ機会を広げます
- (4) ライフステージに応じたスポーツを楽しむ機会の充実 P 2
 - (5) 障がい者スポーツへの参加機会の充実 P 3
 - (6) 岩手発の「超人スポーツ」の創出等によるスポーツ参加機会の拡大 P 4

III 教育

P 5～12

- 13 【体育】児童生徒の健やかな体を育みます
- (1) 豊かなスポーツライフに向けた学校体育の充実 P 6
 - (2) 適切な部活動体制の推進 P 7
 - (3) 健康教育の充実 P 8
- 19 文化芸術・スポーツを担う人材を育てます
- (3) アスリートの競技力の向上 P 9
 - (4) 障がい者アスリートの競技力の向上 P 10
 - (5) スポーツ医・科学サポートを通じた競技力の向上 P 11
 - (6) スポーツ活動を支える指導者等の養成 P 12

IV 居住環境・コミュニティ

P 13～15

- 26 文化芸術・スポーツを生かした地域をつくります
- (2) スポーツを生かした人的・経済的な交流の推進 P 14

I 健康・余暇

健康寿命が長く、いきいきと暮らすことができ、また、自分らしく自由な時間を楽しむことができる岩手

生涯を通じた心身の健康づくりを進め、地域の保健医療提供体制の充実や福祉コミュニティづくりなどにより、子どもから高齢者まで、障がいのある人もない人も、こころと体の健康を実感でき、また、文化芸術活動やスポーツ活動、学びの機会を充実することにより、余暇の充実を実感できる岩手の実現に向けた取組を展開します。

○ いわて幸福関連指標の状況

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R1)	実績値 (R1)
スポーツ実施率	%	61.7	③65.0	⑩63.5	63.5

※ 太枠の指標は、岩手県スポーツ推進計画（2019年3月）と共通の指標になります。

スポーツ実施率は、ライフステージに応じたスポーツ教室の開催や総合型地域スポーツクラブへの活動支援など、市町村や関係団体と連携し、スポーツを楽しむ多様な機会を創出したことなどから、目標値を達成しました。

（課題）

スポーツ実施率について、年代別に見ると、30代・40代の実施率は他の年代と比べると低い傾向にあることから、それらの年代がスポーツを行うことができる環境づくりが必要です。

（取組方向）

総合型地域スポーツクラブの活性化により身近な地域でスポーツ活動を実施できる環境の整備に取り組みます。また、仕事帰りや家族連れでも参加できるよう、県営スポーツ施設において、夜間や週末におけるスポーツ教室の開催、施設開放などの取組を進めます。



4 幅広い分野の文化芸術に親しみ、生涯を通じてスポーツを楽しむ機会を広げます

(基本方向)

県民が心身ともに健康的に暮らせるよう、身近な地域でスポーツ活動ができる総合型地域スポーツクラブの活性化などを通じて、若年期から高齢期までのライフステージに応じたスポーツを楽しむ機会の充実を図ります。

また、障がい者スポーツの一層の推進を図るため、障がいのある人もない人も共に楽しむスポーツ大会や教室の開催などを通じて、障がい者のスポーツへの参加機会の充実や障がい者スポーツの理解促進に取り組みます。

さらに、年齢や身体能力、障がいの有無等に関わらず、県民一人ひとりがスポーツに取り組む新しい地域社会を創造するため、岩手発の「超人スポーツ」の創出等により、スポーツへの参加機会を広げます。

(4) ライフステージに応じたスポーツを楽しむ機会の充実

① 具体的政策推進方策の状況

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R1)	実績値 (R1)
総合型地域スポーツクラブ会員数 (地域全戸加入を除く)	人	⑩11,628	12,500	11,840	13,721
県営スポーツ施設の利用者数	万人	112	120	114	99

- 総合型地域スポーツクラブ会員数（地域全戸加入を除く）は、新たに1クラブが創設されたこと、総合型地域スポーツクラブによる積極的な募集や広域スポーツセンターと連携した周知活動等を進めたことにより、目標値を達成しました。
- 県営スポーツ施設の利用者数は、指定管理者と連携し利用促進に取り組みましたが、令和元年8月5日から令和2年3月25日までの間、県営運動公園陸上競技場が改修工事のため、使用できなかったことなどにより、目標値を達成できませんでした。

② 課題

- 総合型地域スポーツクラブは26市町村58クラブが創設されましたが、未創設が7市町村（うち創設準備中3市町村）となっています。
- 総合型地域スポーツクラブの持続可能な運営体制の構築に向け、クラブの活性化と自立的な運営を促進する環境の整備と令和4年度から運用される「登録・認証制度」の周知が必要です。
- 幅広くスポーツを楽しむ環境整備のため、県営スポーツ施設の計画的な維持管理・修繕・更新等が必要です。
- 新型コロナウイルス感染症の影響等により、県営スポーツ施設の利用者数が減少していることから、県民が安心してスポーツを楽しむ機会の充実を図ることが必要です。

③ 取組方向

- 広域スポーツセンターに専任職員を配置し、未創設市町村でのクラブ創設を支援するとともに、既設の総合型地域スポーツクラブに対する巡回指導、運営助言等を行い、自立的な運営を促進します。

- 県営スポーツ施設毎に個別施設計画を策定し、計画的に修繕・更新等を行うとともに、新たに、盛岡南公園野球場（仮称）を整備します。
- 県営スポーツ施設を安心して利用できるよう、新型コロナウイルス感染症予防策を講じるほか、更なる利用促進に向け、ホームページやSNS等を活用した情報発信に取り組めます。

(5) 障がい者スポーツへの参加機会の充実

① 具体的政策推進方策の状況

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R1)	実績値 (R1)
障がい者スポーツの教室・大会の参加人数〔累計〕	人	2,954	12,640	3,070	3,519
障がい者の受入・活動支援を行うスポーツ関係団体数〔累計〕	団体	③〇8	20	11	11

※ 太枠の指標は、岩手県スポーツ推進計画（2019年3月）と共通の指標になります。

- 障がい者スポーツの教室・大会の参加人数は、障がい者スポーツ教室の実施などを通じ、スポーツ参画機会が増えたことなどから、目標値を達成しました。
- 障がい者の受入・活動支援を行うスポーツ関係団体数は、競技団体や総合型地域スポーツクラブにおいて障がい者ととも楽しむスポーツ教室等を実施したことから、目標値を達成しました。

② 課題

- 身近な地域で自らの興味・関心・適性に応じて日常的にスポーツを楽しむことができるよう、障がいのある人もない人も共にスポーツを楽しむ、交流を図る機会の充実が必要です。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、障がい者スポーツ大会やスポーツ教室等の開催が中止・延期されていることから、「新しい生活様式」に対応した取組が必要です。

③ 取組方向

- 障がいのある人もない人も共に楽しめる機会を提供するため、競技団体や総合型地域スポーツクラブと連携したスポーツ体験会やスポーツ教室等を実施していきます。
- 障がい者スポーツ大会やスポーツ教室等が安全に実施できるよう感染予防ガイドラインに基づき、実施規模や実施方法等の見直しを図ります。

(6) 岩手発の「超人スポーツ」の創出等によるスポーツ参加機会の拡大

① 具体的政策推進方策の状況

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R1)	実績値 (R1)
超人スポーツワークショップ参加者数 〔累計〕	人	69	280	70	122
超人スポーツオープンセミナー参加者 数〔累計〕	人	③040	260	50	105

- 超人スポーツワークショップ参加者数は、ワークショップ開催方法の見直しを行うなど参加しやすい環境整備に努めたことなどにより、参加者が増えたため、目標値を達成しました。
- 超人スポーツオープンセミナー参加者数は、セミナー開催に係る周知強化を図ったことなどにより、参加者が増えたため、目標値を達成しました。

② 課題

年齢や身体能力、障がいの有無に関わらずスポーツに取り組める超人スポーツの創出・普及等を通じ、県民一人ひとりがスポーツに参加する機会を拡大していくことが必要です。

③ 取組方向

超人スポーツに主体的に取り組む県内の団体との連携のもと、これまでの取組結果の分析を進めるとともに、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら、ワークショップ、オープンセミナーを開催し、超人スポーツをPRします。

Ⅲ 教育

学びや人づくりによって、将来に向かって可能性を伸ばし、自分の夢を実現できる岩手

学校教育の充実や国際交流、文化・スポーツ、産業などの様々な分野での人づくりを進めることにより、将来を担う子どもたちの心豊かな学びや生きる力の高まりを実感でき、国内外や地域社会の様々な分野で活躍する人材が育っていると実感できる岩手の実現に向けた取組を展開します。

○ いわて幸福関連指標の状況

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R1)	実績値 (R1)
体力・運動能力が標準以上の 児童生徒の割合	%	小 男子 73.6	75.0	74.0	73.1
		小 女子 82.9	83.0	83.0	82.2
		中 男子 77.7	78.0	78.0	75.7
		中 女子 91.3	91.5	91.5	90.0

※ 太枠の指標は、岩手県スポーツ推進計画（2019年3月）と共通の指標になります。

体力・運動能力が標準以上の児童生徒の割合は、運動の苦手な児童が運動に親しむとともに、運動習慣を身に付けることができるよう体力向上に向けた取組の充実を図ってきましたが、全国と同様に、本県においてもテレビ、スマートフォン、ゲーム等による映像の視聴時間の増加等による身体活動時間の減少などを背景に、実績値が低下傾向となっており、小学生男子が前年度より全国順位が上昇したものの、目標値を達成できませんでした。

（課題）

運動習慣等に係る諸調査を活用し、「運動好き」や「一週間の総運動時間」等における児童生徒の実態を把握しながら、各学校における個別指導を含めた体力向上取組の改善が必要です。

（取組方向）

運動（遊び）やスポーツに親しむ習慣を身に付けさせるため、学校・家庭・地域が連携・協働し「希望郷いわて 元気・体力アップ60運動」などを推進します。

また、児童生徒がスポーツの意義や価値を学び、スポーツへの興味・関心を一層深められるよう、体育授業の改善などに取り組みます。



13 【体育】児童生徒の健やかな体を育みます

(基本方向)

児童生徒一人ひとりが自らの体力や健康に関心を持ち、運動に親しむ資質や能力を身に付けることができるよう、学校体育の充実や適切な部活動の推進などにより、体力の向上と健康の保持・増進に取り組みます。

(1) 豊かなスポーツライフに向けた学校体育の充実

① 具体的政策推進方策の状況

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R1)	実績値 (R1)
運動やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合	%	⑩89	89	89	89

- 幼児児童生徒が運動やスポーツに親しむ習慣を身に付けられるよう、諸調査の効果的な活用、体育授業の改善、休み時間における運動遊びの奨励等の取組、家庭・地域と連携した取組を推進した結果、目標値を達成しました。
- 児童生徒が体力や技能の程度、年齢や性別及び障がいの有無等に関わらず、運動やスポーツの楽しみ方を共有することができるよう、各学校においてインクルーシブ教育の推進を図るとともに体育・保健体育授業の改善を図りました。
- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を一つの契機と捉え、児童生徒がスポーツの意義や価値を学び、スポーツへの興味・関心を高める取組を推進しました。

② 課題

- 運動習慣等に係る諸調査を活用し、「運動好き」や「一週間の総運動時間」等における児童生徒の実態を把握しながら、各学校における個別指導を含めた体力向上取組の改善が必要です。
- 児童生徒が運動習慣を身に付けるために、学校と家庭・地域が連携を図った取組の充実が求められます。

③ 取組方向

- 「希望郷いわて元気・体力アップ60運動」
 - ・ 体力向上を目指して、子供が1日に合わせて60分以上運動（遊び）やスポーツに親しむために、学校等が家庭・地域と連携して運動習慣形成に向けた環境づくりに取り組みます。
 - ・ 体育授業や放課後・長期休業中の体力向上に係る取組に協力できる地域スポーツ指導者（総合型地域スポーツクラブの指導者や各市町村スポーツ推進委員等）リストを作成し、学校等に情報提供します。
 - ・ 総合型地域スポーツクラブにおいて実施される幼児児童生徒を対象としたスポーツ教室等のリストを作成し、学校等に情報提供します。
- 学校等における環境づくりの推進（学校等における体力向上取組の実施）
 - ・ 学校等は、県体力・運動能力調査及び全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を活用し、子供が運動の楽しさを味わい、運動習慣を身に付けることのできる取組を実態に応じて実施します。

- 中央講師による「特別支援学校体育指導者研修会」を実施し、特別支援の視点に立った指導に係る講義及び演習、実技を行います。
- 県内16の推進校に、オリンピックやパラリンピアンへの派遣、事前・事後学習等とおしてスポーツの教育的価値を学ぶ機会の推進を図ります。

(2) 適切な部活動体制の推進

① 具体的政策推進方策の状況

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R1)	実績値 (R1)
部活動の活動方針について、学校、保護者、外部指導者等が、共通理解を図る部活動連絡会を開催している学校の割合	%	中 80.2	100	85	89.2
		高 —	100	70	94.7

部活動の指導方針やねらい等について、教職員、保護者、外部指導者等との共通理解を図る機会の設定を推進した結果、中学校は140/157校(89.2%)、高等学校は72/76校(94.7%)となり、目標値を達成しました。

② 課題

- すべての学校において、部活動における指導方針等について共通理解が図られ、望ましい活動となるよう、設定していない学校に対して働きかけが必要です。
- 部活動への加入が、「任意加入」となっている状況は、中学校で4/157校(2.5%)となっており、生徒の自主的・自発的な参加により行われる部活動の周知が必要です。

③ 取組方向

- 全ての市町村が「自主的・自発的な参加により行われる部活動」を盛り込んだ方針となるよう要請していきます。
- 部活動連絡会等支援事業
 - ・ 学校が開催する部活動連絡会等に講師として指導主事を派遣します
 - ・ 市町村教委や学校が実施する部活動指導員研修会等に、講師として指導主事を派遣します。
- 関係団体や有識者で構成する「中学生スポーツ・文化活動に係る研究会」を設置し、望ましい部活動の在り方を検討します。

(3) 健康教育の充実

① 具体的政策推進方策の状況

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R1)	実績値 (R1)
「定期健康診断」の肥満度が正常である児童生徒の割合	%	小 ^③ 88.1	91	89	87.9
		中 ^③ 86.2	89	87	85.6
喫煙飲酒の指導を含めた「薬物乱用防止教室」を開催している小学校の割合	%	73.7	100	85.0	—

- 「定期健康診断」の肥満度が正常である児童生徒の割合は、運動する児童生徒とそうでない児童生徒の二極化が見られる中で、一週間の総運時間が60分未満の児童生徒が減少しなかったことなど、肥満予防のための運動習慣を身に付けるなどの取組を効果的に推進できなかったことが考えられ、小学校、中学校いずれも目標値を達成できませんでした。
- 喫煙飲酒の指導を含めた「薬物乱用防止教室」を開催している小学校の割合は、文部科学省が行う薬物乱用防止教室開催状況調査の結果が公表されていないことから、実績値を測定できませんでした。なお、薬物乱用を未然に防止するために、児童生徒が薬物乱用の危険性・有害性について正しい知識を身につけ、規範意識の向上を図るため、薬物乱用防止教室を開催しました。

② 課題

- 肥満を解消または予防するために、児童生徒が運動習慣、食習慣を含む生活習慣病を予防するための生活習慣を身につけることができるよう、学校と家庭・地域が連携を図った取組の充実が求められます。
- 薬物乱用防止教室開催の必要性について、すべての学校において共通理解が図られ、実施していない学校に対して働きかけが必要です。

③ 取組方向

- 軽度肥満児童とその保護者を対象とした「岩手型肥満解消資料ぺっこアプローチ」及び食習慣啓発資料「もうぺっこ噛みましょう！」の活用をより一層推進し、小学校における指導の更なる充実を図り、肥満の改善に取り組みます。
- 肥満傾向児が増加傾向である中高生に対して、中高生向け指導用資料「岩手っ子カラダ改革☆LAFF Challenge!」を活用し、指導の充実を図るとともに、家庭や地域と連携して肥満改善に向けた取組ができるよう啓発を行い、今後とも適度な運動習慣、望ましい食習慣、基本的な生活習慣の形成・定着の推進を図ります。
- 「希望郷いわて元気・体力アップ60運動」により、子供が1日に合わせて60分以上運動（遊び）やスポーツに親しむために、学校等が家庭・地域と連携して運動習慣形成に向けた環境づくりに取り組みます。
- 小学校における薬物乱用防止教室の進め方についてリーフレットを作成し、活用の推進に取り組みます。



19 文化芸術・スポーツを担う人材を育てます

(基本方向)

スポーツを担う人材を育てるため、アスリート、障がい者アスリートの各種競技大会や強化合宿への参加を支援するとともに、スポーツ活動を支える指導者等の養成、スポーツ医・科学サポートを推進します。

(3) アスリートの競技力の向上

① 具体的政策推進方策の状況

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R1)	実績値 (R1)
国民体育大会天皇杯順位	位	③⑩ 東北1位	東北1位	東北1位	東北2位
本県関係選手の日本代表選出数〔累計〕	人	40	112	28	32

※ 太枠の指標は、岩手県スポーツ推進計画（2019年3月）と共通の指標になります。

- 国民体育大会天皇杯順位は、いわて国体以降、成年選手の県内定着が進まなかったことなどから目標値を達成できませんでした。
- 本県関係選手の日本代表選出数は、いわてスーパーキッズ発掘・育成事業やトップアスリートの活動支援などにより、目標値を達成しました。

② 課題

- 国体得点獲得や選手全体のレベルアップにつながる本県在住のトップアスリートの確保とともに、アスリートの雇用に対する企業への働きかけが必要です。
- 日本代表選手を多数輩出するためには、中央競技団体からの支援を受けていない、日本代表に続く層のアスリートに対する活動経費を支援することが必要です。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、国民体育大会が延期となったことに加え、各競技団体の強化練習の実施に支障が生じており、コロナ禍における強化策の検討が必要です。

③ 取組方向

- 本県選手の競技力の維持・向上に向けて、県体育協会に無料職業紹介所「アスリート版ハローワーク」を開設し、成年選手の雇用企業を開拓するとともに、県内就職を希望するアスリートの発掘など、トップアスリートの県内就職に向けた取組を推進します。
- これまでの日本代表クラスのアスリートに対する活動支援に加え、日本代表入りできる能力を持つアスリートの活動経費を新たに支援します。（トップアスリート200千円×35名、ポテンシャルアスリート100千円×70名）
- 競技別のガイドラインに基づいた安全、安心な強化練習を実施するとともに、競技団体との調整を進め来年の国体に向け、選手強化に取り組みます。

(4) 障がい者アスリートの競技力の向上

① 具体的政策推進方策の状況

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R1)	実績値 (R1)
障がい者アスリートの育成研修会参加選手数〔累計〕	人	14	84	18	23
ジャパンパラ競技大会出場選手数〔累計〕	人	7	30	7	11

- 障がい者アスリートの育成研修会参加選手数は、特別支援学校のスポーツ交流会を機会に参加を促すなど周知を図った結果、目標値を達成しました。
- ジャパンパラ競技大会出場選手数は、パラリンピック選手育成強化事業による遠征費の補助などにより選手強化が図られたことから、目標値を達成しました。

② 課題

- 選手の発掘・育成に向け、幅広い競技を体験し能力の適性を見極めるとともに、スポーツ医・科学に裏付けられた専門指導を受ける機会の充実を図る取組が必要です。
- パラアスリートが競技を継続していくための経済的負担の軽減が重要であるとともに、障がいの程度や身体の状態等、障がい者アスリートの特性に応じた競技用具の整備が必要です。

③ 取組方向

- 関係競技団体と連携し、パラアスリートが冬季競技種目を含む複数競技に取り組む挑戦機会を創出するとともに、パラアスリートコーディネーターによる、競技団体、アスリートの所属先やリハビリ施設等の医療機関等への訪問活動を通じ、新たな選手発掘と育成環境充実への取組を推進します。
- 強化選手を指定し、県外遠征・強化事業等の経費を支援するとともに、ジャパンパラ競技大会に出場する障がい者アスリートのパフォーマンス向上につながる競技用具の整備を行います。(陸上競技用車椅子(レーサー)、座位スキー(シットスキー))

(5) スポーツ医・科学サポートを通じた競技力の向上

① 具体的政策推進方策の状況

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R1)	実績値 (R1)
スポーツ医・科学サポート団体数 〔累計〕	団体	90	382	91	117
アスレティックトレーナー等登録者数	人	90	114	90	93

- スポーツ医・科学サポート団体数は、スポーツ医・科学の知見を持ったトレーナースタッフの巡回指導を積極的に行ったことなどから、目標値を達成しました。
- アスレティックトレーナー等登録者数は、医・科学の知見に基づいたトレーニングへのニーズの高まりにより、資格取得者が増え、目標値を達成しました。

② 課題

- 体力測定等データ活用の分野において、急速に進む技術革新の動向をつかんだ知見と最新情報の提供が必要です。
- 女性アスリートに対する同性トレーナーのサポート体制の充実を図るため、女性トレーナーの養成が必要です。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、アスリートに対するトレーナーによるサポートや、スポーツ医・科学の知見を有する講師による講習など対面での事業実施が減少していることから、それに代わるプログラムの提供が必要です。

③ 取組方向

- スポーツ指導、スポーツ医・科学、情報産業分野の有識者によるデータ活用プロジェクトチーム会議を行い、動作分析や体力測定等データの有効活用による効果的な指導について検討します。
- 令和元年度から3年間かけて養成するIAT（いわてアスレティックトレーナー）第3期生養成事業では、60名の養成を目指し、引き続き取り組んでいきます。
- 現在の県内女性トレーナーの4名に加え、IAT3期生の女性受講者14名の養成を継続することで、女性アスリートのサポート体制の充実に取り組みます。
- インターネットを活用して、少しの時間でも取り組める運動プログラム紹介動画「レッツ！ぺっこトレ！！」の定期的配信、スポーツドクターやスポーツ栄養の専門家によるスポーツ医・科学情報提供「ぺっこ学ぶべ」の県HPへの定期掲載など、新たな形でスポーツ医・科学の普及を図ります。

(6) スポーツ活動を支える指導者等の養成

① 具体的政策推進方策の状況

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R1)	実績値 (R1)
公認スポーツ指導者資格登録者数	人	㊦2,701	2,850	2,738	2,759
公認障がい者スポーツ指導者資格登録者数	人	225	300	255	250
スポーツ推進委員研修会参加率	%	㊦43.6	50.0	50.0	54.3

- 公認スポーツ指導者資格登録者数は、資格取得のための講習会の開催、資格取得にかかる経費補助などにより資格登録者が増えたことから、目標値を達成しました。
- 公認障がい者スポーツ指導者資格登録者数は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で3月に開催予定の講習会を中止したことに伴い、目標値を達成できませんでした。
- スポーツ推進委員のニーズに合わせ、複数回開催している研修会の開催時期や研修内容を見直したことなどにより、参加率が向上したため、目標値を達成しました。

② 課題

- 理論に基づく指導ができる指導者の養成が必要であるとともに、女性アスリートの活躍を推進するためには、指導者の女性特有の健康問題への正しい理解が必要です。
- 研修会へ積極的に参加するスポーツ推進委員が固定化されてきており、より幅広い委員が研修会に参加できるような取り組みが必要です。
- 今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、予定されていたスポーツ推進委員研修会の実施機会が減少しており、委員の資質向上のための機会の確保が必要です。

③ 取組方向

- 国体監督の条件となる競技別指導者資格取得の支援や全国トップレベルの指導者による研修の実施、県トップコーチの中央研修への派遣に加え、女性アスリートの指導者を対象としたスポーツ医・科学研修会を実施します。
- 新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、研修機会を確保し、限られた開催機会の中で内容の充実を図ります。また、市町村と連携してより多くの委員の参加を促進し、資質向上に取り組めます。

IV 居住環境・コミュニティ

不便を感じないで日常生活を送ることができ、また、人や地域の結び付きの中で、助け合
って暮らすことができる岩手

居住環境の整備や日常生活に必要な交通手段の確保などにより、住まいの快適さや
暮らしやすさを実感でき、また、多様な主体の連携や異なる文化、県内外の人的・経済的な
交流などにより、暮らし続けたい、帰りたいと思える地域のつながりを実感できる岩手の実
現に向けた取組を展開します。

○ いわて幸福関連指標の状況

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R1)	実績値 (R1)
文化・スポーツ施設の入場者数 (スポーツ施設入場者数) ※1	万人	805	806	806	757

※1 県及び県内市町村の公立スポーツ・レクリエーション施設入場者数

スポーツ施設入場者数は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う施設の利用制限等
により利用者数が減少し、目標値を達成できませんでした。

(課題)

- 新型コロナウイルス感染症予防策を講じながら、県民が安心してスポーツを楽しむ
機会の充実を図ることが必要です。
- いわてスポーツコミッションを中心に、市町村等と連携したスポーツによる交流人
口拡大の取組を継続していくことが必要です。

(取組方向)

- 県営スポーツ施設を安心して利用できるよう、新型コロナウイルス感染症予防策を
講じるほか、更なる利用促進に向け、ホームページやSNS等を活用した情報発信に取
り組みます。
- いわてスポーツコミッションを中心とした、様々な大会・合宿の誘致等による、各
種競技の国内拠点化の形成や本県の自然を生かしたスポーツアクティビティの普及
等に取り組みます。



26 文化芸術・スポーツを生かした地域をつくります

(基本方向)

スポーツを生かした地域活性化を図るため、ラグビーワールドカップ2019™や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーを継承し、スポーツイベントの誘致・開催をはじめとしたスポーツツーリズムの拡充などを通じて、人的・経済的な交流の拡大に取り組めます。

(2) スポーツを生かした人的・経済的な交流の推進

① 具体的政策推進方策の状況

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R1)	実績値 (R1)
スポーツ大会・合宿・イベントの参加者数〔累計〕	人	130,000	594,000	166,000	187,809
県内トップ・プロスポーツチームによるスポーツ教室等の参加者数〔累計〕	人	3,771	15,500	3,830	2,956

※ 太枠の指標は、岩手県スポーツ推進計画（2019年3月）と共通の指標になります。

- スポーツ大会・合宿・イベントの参加者数は、市町村が実施したスポーツイベント参加者数が増えたため、目標値を達成しました。
- 県内トップ・プロスポーツチームによるスポーツ教室等の参加者数は、1回当たりのスポーツ教室参加者数の減少や新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から年度末に予定していたスポーツ教室を中止したことなどにより、目標値を達成できませんでした。

② 課題

- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の1年延期を受け、「復興五輪」の理念と大会への興味関心が薄れないよう、機運醸成の新たな取組や大会を契機とした国際交流の促進、新型コロナウイルス感染症対策を含む、より安全・確実な聖火リレー等の実施に向けた準備が必要です。
- 「ラグビー県いわて」の定着に向け、ラグビーワールドカップ2019岩手・釜石開催を記念したイベントの開催や国内外との交流を継続していくことが必要です。
- 本県でスポーツ大会や合宿が継続して行われるよう、大会主催者、合宿で来県したチーム、相談会への参加チーム等に対し、フォローしていく必要があります。
- スポーツ教室等の参加者数は減少傾向にあるため、認知度向上に向けた情報発信の強化や内容の工夫等が必要です。
- 官民一体のスポーツ推進体制「いわてスポーツ推進プラットフォーム」の構築に向け、体制、事業等を具体化することが必要です。

③ 取組方向

- 東日本大震災津波から10年目の節目となる来年に開催される東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、大会の価値の共有と復興五輪出前スクールなど機運醸成の新たな取組やホストタウン交流等の取組支援、聖火リレー・聖火フェステ

イバルに向けた市町村や関係機関と一体となった準備などに取り組みます。

- ラグビーワールドカップ2019のレガシーを生かし、メモリアルイベントの開催や大会出場国との国際交流の取組、いわてスポーツコミッションを中心とした大会・合宿誘致などを通じて人的・経済的交流の拡大に取り組みます。
- 大会終了後も関係団体との連携を密にし、継続開催に向けた調整を図り、また本県で合宿を実施したチーム、関係競技団体等との縁を大事にし、継続した来県、合宿の実施に繋げる取り組みをしていきます。
- スポーツ教室等は、実施主体であるトップ・プロスポーツチームと連携し、スポーツ教室の認知度向上に向けた周知活動の強化や、ニーズに応じた練習プログラムの提供などにより多くの方に参加いただけるよう取り組んでいきます。
- 「いわてスポーツ推進プラットフォーム研究会」を中心に、プラットフォームの体制、事業等の具体化を推進し、プラットフォームの早期設立を目指します。